

2026・一・三【角川俳句賞2026 B t 01 全26句】選11句

~~角~~永き日の遅筆悪筆反故の山

~~角~~墓石の老いも若きも彼岸かな

角 花冷の十四五人に出開帳

角 頭から人現はるる御身拭

角 地虫出づれど礎石の上に何もなし

角 母校には知る人もなし桜咲く

~~角~~桃は食はれ梅は干されて皺だらけ

角 忘却に彼方ありけり落し水

~~角~~後ろから押され押されて大晦日

角 あれこれのこれで終りの年用意

~~角~~買ひ替へて今年^{いふよ}の^{いふよ}き年用意

い21
9:35 am

2026・一・4【角川俳句賞2026 B to 02 11/31句 増減】

角 永き日の遅筆悪筆反故の山 ^{5:26am}
長き夜 の筆をもうきよ 16 5:20 am

角 地虫出づれど礎石の上に何もなし

角 頭から人現はるる御身拭

角 松と梅枝触れあへば根の先も ^{5:13am}

角 母校には知る人もなし桜咲く

角 花堤途切れて小さき通過駅

角 花冷の十四五人に出開帳

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 忘却に彼方ありけり落し水 ^{5:25 am}

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 あれこれのこれで終りの年用意

△4 +5

2026・一・21【角川俳句賞2026 B 全27句増減】

選10句

12行3段組14ボ 2026年1月21日 11:27へ1 桐10

△角

キャラメル紙の折目や臘月

角

頭から人現はるる御身拭

角

淫繁図の大きく重く嘆きをる

角

母校には待つ人もなし桜咲く

角

花冷の十四五人に出開帳

角

流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角

忘却に彼方ありけり雁帰る

角

雪月花に色勝りける紅葉かな

角

あれこれのこれで終りの年用意

角

後ろから押され押されて大晦日

垂れ下り 1.23 7.33 am

踏みゆくや道の落葉のまゝ

2026.1.29 22:50

ふみくたく落葉の

衣や表を

23.42

粉々に踏みまれ落葉の

衣を 23.45

落葉踏みゆくや落葉のまゝ

1.30 5:16 am

まを踏み表を踏んで落葉のまゝ

cf まを踏んで 5:30 am

表をまなく踏みゆく

落葉をかき

2026.1.30 14:6

ことごとく踏みゆく

落葉のまゝ

14:15

take-3 尾箱をし

2026・一・30【角川俳句賞2026 B 7-04 全38句 増減】

54

選11句

12行3段組14ポ
2026年1月30日
18:41 へ1 桐10

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 頭のうへに人あらはれて御身拭

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 種採つて封筒に書く宛名かな

角 鷹に筆られたる骨に肉少し

角 踏みゆくや道の落葉の裏表

角 あれこれのこれで終りの年用意

角 後ろから押され押されて大晦日

角 ~~き~~ゆつきゆつと生きて深夜の雪を踏む

角 湯たんぽの余熱のごとし日向ぼこ

A

①

やうに

1:31
5:10 am

太陽の光を地へ

を分けて
日向ぼこ

1:31
5:32 am

に渡り

5:147 am

踏みゆく

1:30
23:10

2026・一・31【角川俳句賞2026 B t-05 全47句2増2減】

選21²年³段組14ホ 2026年1月31日 10:19へ1〜桐10

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 涅槃図の嘆きのままに垂れ下る

角 頭のうへに人あらはれて御身拭

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 松手入こんな大きな枝までも

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 種採つて封筒に書く宛名かな

角 鷹に筆られたる骨に肉少し

角 裏おもて混じる落葉を踏みゆけり

角 あれこれのこれで終りの年用意

角 後ろから押され押されて大晦日

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 涅槃図の~~大き~~嘆きの吊られある

角 頭のうへに人の働く御身拭

角 花堤途切れて小さき~~通過~~駅

角 章を区切る~~白き~~ページや夏始

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 スッピンの涼しき顔をしてをりぬ

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 ~~種~~採つて封筒に書く宛名かな

角 ~~鷹~~に筆られたる骨に肉少し

角 裏おもて混じる落葉を踏みゆけり

角 あれこれのこれで終りの年用意

~~ア~~ 角 後ろから押され押されて大晦日

~~上6~~ 一ページに7:52am

~~右ページを白に17~~
2026 2.3 7:51am

~~白のページをはさみ夏始~~
2.3 7:55am

~~配るべき封筒の数~~
2.1 8:15am

~~ふれふ かかれし~~
~~友のふれふを~~
2.1 8:10am

~~幻の向へ~~

2026・2・3【角川俳句賞2026 B t 14 07 12/62句1増2減】

12行3段組14ボ 2026年2月3日 11:27へ1 桐10

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 涅槃図の大き嘆きの吊られある

角 頭のうへに人の働く御身拭

角 花堤途切れて小さき通過駅

角 キャラメル紙の折目や花は葉に

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 スッピンの涼しき顔をしてをりぬ

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

角 鷹に筆られたる骨に肉少し

角 裏おもて混じる落葉を踏みゆけり

角 あれこれのこれで終りの年用意

角 後ろから押され押されて大晦日

断 泣とふくとあちて ちさか女く
壬午 今年 6:10 am 5:23 22:27
2026 2.5

壬午 20.11 1:21 am
壬午 20.11 1:21 am
壬午 20.11 1:21 am

2026 2.4 1:17 am
2.11 1:12 am

2.4 1:20 am
2.11 1:15 am
2.4 1:28 am

2026 2.4 1:27

大 1:45 am

2.5 6:26 am

2.23 13:20

2026 2.23 10:55 am

2026 2.3 15:38

2.4 1:42 am

2.11 1:12 am

角 日々日記に書くこともなく春の昼

角 小さな子のほつぺた丸くチューリップ

角 学校も会社も春の昼休

角 花堤途切れて小さき通過駅

角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸かな

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 カレンダー四月なれども常のごと

角 風船は上へ花吹雪は横へ

角 フルートの長き白銀花の冷え

角 踏切に特急を待つ暑さかな

角 転がつて判子ありけり春の雨

角 スツピンの涼しき顔をしてをりぬ

角 透明な体積ゆるる石鹼玉

角 スツピンの涼しき顔の憎らしき

角 暗うしてなほ春燈の華やげり

角 ほほゑむにあらず大哄笑の夏の雲

角 友の字が反の字に似る万愚節

角 白雨とはいへど風景暗むほど

角 桃の花ほどに頬染め桃の酒

角 流れ行く柱の見ゆる梅雨出水

角 涅槃図の大き嘆きの吊られある

角 麦酒には負ける泡立ちソーダ水

角 頭のうへに人の働く御身拭

角 ソーダ水飲めばたちまち背に翼

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 振つて注げばビールの如しコカコーラ

角 かくれんぼ早よ見つけろと鳴く子猫

角 父のビールに負けじとコーラ振つて注ぐ

角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな

角 麦酒酌み交さむ浦島太郎冠者

角 轟音が鉄橋渡る桜かな

角 日の出より白く噴水噴き上る

角 花びらの硬く重たくチューリップ

角 濃き黒を薄手の黒に更衣

角 青春の淡き残像更衣

角 田植機の煙を吐いて折り返す

角 海の歌うたひ海水浴場へ

角 前向きに幹を降り来る蟻の列

角 土不踏ありとも見え蟻あるく

角 蟻地獄向三軒両隣

角 衰へし視力の端の蚊の羽音

角 残るもの残らざるもの蟬の翅

角 年輪を切れど年輪蟬時雨

角 枝々を隠して青葉若葉なり

角 花は葉になつて去るべき人は去り

角 キャラメル紙の折目や花は葉に

角 花は葉に廻り舞台のある如く

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 台風に防潮堤の重たけれ

角 ひらがなのゼッケン付けて運動会

角 クレーンで部屋を積み上げ星祭

角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸かな

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 混み合へる画鋏の箱や山眠る

角 ひろげてはうちひろげては春の波

角 風船は上へ花吹雪は横へ

角 冬籠すなはち我に籠るなり

角 体積が丸ごと浮かぶ石鱖玉

角 スッピンの涼しき顔をしてをりぬ

角 ブランコに乗つてゆやうん雪達磨

角 暗うしてなほ春燈の華やげり

角 四阿の四面楚歌なる夕立かな

角 パックしてフックに売られをる聖樹

角 友の字が反の字に似る万愚節

角 麦酒には負ける泡立ちソーダ水

角 鷹に筆られたる鳥の骨白し

角 桃の花ほどに頬染め桃の酒

角 海の歌うたひ海水浴場へ

角 踏み割れば表裏別なき落葉かな

角 涅槃図の大き嘆きの吊られある

角 前向きに幹を降り来る蟻の列

角 新製品に今年楽しき年用意

角 頭のうへに人の働く御身拭

角 衰へし視力の端の蚊の羽音

角 あれこれのこれで終りの年用意

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 荒積みのテトラポッドに流れ星

角 かくれんぼ早よ見つけよと鳴く子猫

角 台風に防潮堤の重たけれ

角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな

角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ

角 をさな子のほつぺた丸くチューリップ

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

し 5.24 23:50

この机やる目の中に鳥を飼つて
2:55 am

5.26 2:43 am

りて 5.26 0:25 am
5.25 23:10

2026.5.26【角川俳句賞2026 Better 10 40/173句】選40句

17行3段組14ポ 2026年5月26日 12:13へ1 桐10

うす皮の内の体積〜
5.26 13:37

皮のうすに透かし〜
13:38

2A
角 スッピンの涼しき顔で否と言ふ

角 ひろげてはうちひろげては春の波
角 暗うしてなほ春燈の華やげり
角 体積が丸ごと浮かぶ石鯪玉
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 桃の花ほどに頬染め桃の酒
角 花篝忍者の潜む夜のお濠
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 頭のうへに人の働く御身拭
角 忘却に彼方ありけり雁帰る
角 かくれんぼ早よ見つけよと鳴く子猫
角 うちの子の自慢話とその子猫
角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな
角 をきな子のほつぺた丸しチューリップ
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 風船は上へ花吹雪は横へ

角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 麦酒には負ける泡立ちソーダ水
角 海の歌うたひ海水浴場へ
角 教室の壁の画鋏も夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 蟻地獄いかにして巣を出づるやも
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 荒積みのテトラポッドに流れ星
角 台風に防潮堤の重たけれ
角 おほかたは人恋しさよ火恋し
角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ
角 雪月花に色勝りける紅葉かな
角 山に雪プリンの上に茶のソース
角 混み合へる画鋏の箱や山眠る
角 良き日差し追ふ術もなし日向ぼこ
角 冬籠すなはち我に籠るなり

ブリコ 32
5.26 13:49
またきき、落し 13:52

旅人のすくもに
5:27 15:55

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
9:27 15:09

2026.5.26 【角川俳句賞2026】 選句

角 ひろげてはうちひろげては春の波
角 暗うしてなほ春燈の華やげり
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 桃の花ほどに頬染め桃の酒
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 頭のうへに人の働く御身拭
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 忘却に彼方ありけり雁帰る
角 かくれんぼ早よ見つけよと鳴く子猫
角 うちのの子の自慢話とその子猫
角 うちの子といふは猫の子日だまりの
角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな
角 をさな子のほつぺた丸しチューリップ
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 その下になに隠るるや何花筏

角 風船は上へ花吹雪は横へ
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 麦酒には負ける泡立ちソーダ水
角 海の歌うたひ海水浴場へ
角 教室の壁の画鋏も夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 蟻地獄いかにして巣を出づるやも
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 おほかたは人恋しさよ火恋し
角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ
角 雪月花に色勝りける紅葉かな
角 良き日差し追ふ術もなし日向ぼこ
角 冬籠すなはち我に籠るなり
角 寒卵割つて裸の寒卵

17行3段組14ポ 2026年5月26日 19:40へ1桐10
角 ブランコに乗つてゆやうん雪達磨
角 パックしてフックに売られをる聖樹
角 踏み割れば表裏別なき落葉かな
角 あれこれのこれで終りの年用意
角 年用意新製品に買ひ替へて
角 初刷の見開き富士のやや歪
角 子なき老したれども春植
角 父母に日記たかりし龍の玉
角 龍の玉草葉の陰のうのう
角 今までも先代々々々々々
角 まるかをの如くに
角 降雪中の逆転席の夜衣
5:27 14:54
9:127 am
9:40 am
9:35 am
9:45 am
15:01
15:05

- 角 ひろげてはうちひろげては春の波は³⁵ 角 麦酒には負ける泡立ちソーダ水
 角 暗うしてなほ春燈の華やげり 角 海の歌うたひ海水浴場へ^{5.28 10.5am}
 角 友の字が反の字に似る万愚節 角 教室の壁の画紙も夏休^{5.28 10.5am}
 角 桃の花ほどに頬染め桃の酒 角 前向きに幹を降り来る蟻の列
 角 花篝忍者の潜む夜のお濠 角 蟻地獄いかにして巣を出づるやも
 角 涅槃図の大き嘆きの吊られある 角 衰へし視力の端の蚊の羽音
 角 頭のうへに人の働く御身拭 角 あの時もこの葉桜と夏柳
 角 砂浜に夢の化石の桜貝 角 台風を迎へ撃つべく遊園地
 角 忘却に彼方ありけり雁帰る 角 盆用意わけのわからぬ箱もある
 角 かくれんぼ早よ見つけよと鳴く子猫 角 おほかたは人恋しさよ火恋し
 角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな 角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ
 角 をさな子のほつぺた丸しチューリップ 角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
 角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る 角 雪月花に色勝りける紅葉かな
 角 その下になに隠るるや何花筏 角 良き日差し追ふ術もなし日向ぼこ
 角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花 角 冬籠ひたすら我に籠るなり
 角 風船は上へ花吹雪は横へ 角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな
 角 四阿の四面楚歌なる夕立かな 角 障子なき暮しなれども古畳

2026.5.28【角川俳句賞2026 B tier 1349/20句】選0句

行3段組14ポ 2026年5月28日 22:33 へ1 桐10

角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり
角 転がつて判子ありけり春の雨
角 川原まで行つて踏みゆく春の土
角 ひろげてはうちひろげては春の波
角 暗うしてなほ春燈の華やげり
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 桃の花ほどに頬染め桃の酒
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 頭のうへに人の働く御身拭
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 忘却に彼方ありけり雁帰る
角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな
角 をきな子のほつぺた丸しチューリップ
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 その下になに隠るるや花筏
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 風船は上へ花吹雪は横へ
角 踏切に鈍行を待つ暑さかな
角 大雷雨時計の針の重なりて
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 息継ぎもせずに飲み干す麦酒かな見
角 青春はすでに思ひ出更衣
角 海の歌うたひ海水浴場へ
角 教室の画鋏寂しき夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 蟻地獄向三軒両隣
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 年輪を切れど年輪蟬時雨
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 クレーンで部屋を積み上げ星祭
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 おほかたは人恋しきよ火恋し
角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ
角 雪月花に色勝りける紅葉かな
角 障子なき暮しなれども古畳
角 冬籠ひたすら我に籠るなり
角 除雪車を動かしてゐる皮衣
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 パックしてフックに売られをる聖樹
角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな
角 年用意新製品に買ひ替へて
角 初刷の見開き富士のやや歪
角 台風のビルに
角 通信すなげき
角 父の日の
角 母の日の
角 父の日の
角 母の日の

角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり
角 転がつて判子ありけり春の雨
角 川原まで行つて踏みゆく春の土
角 ひろげてはうちひろげては春の波
角 暗うしてなほ春燈の華やげり
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 桃の花ほどに頬染め桃の酒
角 花簪忍者の潜む夜のお濠
角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 頭のうへに人の働く御身拭
角 砂浜に夢の化石の桜貝
角 忘却に彼方ありけり雁帰る
角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな
角 をきな子のほつぺた丸しチューリップ
角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る
角 その下になに隠るるや花筏
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 風船は上へ花吹雪は横へ
角 踏切に鈍行を待つ暑さかな
角 大雷雨時計の針の重なりて
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 息継ぎもせずに飲み干す麦酒かな見
角 青春はすでに思ひ出更衣
角 海の歌うたひ海水浴場へ
角 教室の画鋏寂しき夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 蟻地獄向三軒両隣
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 年輪を切れど年輪蟬時雨
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 クレーンで部屋を積み上げ星祭
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 おほかたは人恋しきよ火恋し
角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ
角 雪月花に色勝りける紅葉かな
角 障子なき暮しなれども古畳
角 冬籠ひたすら我に籠るなり
角 除雪車を動かしてゐる皮衣
角 寒卵割つて裸の寒卵
角 パックしてフックに売られをる聖樹
角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな
角 年用意新製品に買ひ替へて
角 初刷の見開き富士のやや歪
角 台風のビルに
角 通信すなげき
角 父の日の
角 母の日の
角 父の日の
角 母の日の

角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり

角 頭のうへに人の働く御身拭

角 揉まれたる一枚一枚の胡瓜

角 転がつて判子ありけり春の雨

角 砂浜に夢の化石の桜貝

角 息継ぎもせずに飲み干す麦酒かな

角 川幅も次第に春の川らしく

角 忘却に彼方ありけり雁帰る

角 乾杯のビールジョッキをぶつけ合ひ

角 川原まで行かねば踏めぬ春の土

角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな

角 青春はすでに思ひ出更衣

角 ひろげてはうちひろげては春の波

角 をさな子のほつぺた丸しチューリップ

角 海の歌うたひ海水浴場へ

角 暗ければ暗き華やぎ春燈

角 花下に立ち幹に凭れて目を瞑る

角 教室の画鋏寂しき夏休

角 友の字が反の字に似る万愚節

角 その下になにに隠るるや花筏

角 前向きに幹を降り来る蟻の列

角 海までの長き旅路を雛かな

角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 蟻地獄向三軒両隣

角 桃の花ほどに頬染め桃の酒

角 空をゆく風船を追ふ花吹雪

角 衰へし視力の端の蚊の羽音

角 花篝忍者の潜む夜のお濠

角 踏切に鈍行を待つ暑さかな

角 年輪を切れど年輪蟬時雨

角 湯ぼてりの如く水飲む花疲れ

角 大雷雨時計の針の重なりて

角 圧力に玉葱溶くるカレーかな

角 涅槃図の大き嘆きの吊られある

角 四阿の四面楚歌なる夕立かな

角 方緑や男も入る美人の湯

2026.5.29【角川俳句賞2026 B 14 57/208句】

角 あの時もこの葉桜と夏柳

角 障子なき暮しなれども古畳

角 たけのこの里もきのこの山も秋

角 冬籠ひたすら我に籠るなり

角 ドア開けて我家の外の秋の暮

角 除雪車を動かしてゐる皮衣

角 長き夜の右へ左へ繰るページ

角 寒卵割つて裸の寒卵

角 酔ひしれて言葉に溺れ天の川

角 パックしてフックに売られをる聖樹

角 台風を迎へ撃つべく遊園地

角 通信簿家計簿クリスマス前夜

角 クレーンで部屋を積み上げ星祭

角 表裏なく踏み碎かれし落葉かな

角 盆用意わけのわからぬ箱もある

角 年用意新製品に買ひ替へて

角 圧力をかけて新米炊き上げる

角 初刷の見開き富士のやや歪

角 柔らかな岩の如くに鹿眠る

角 五指に余る秋果の幸を先づひとつ

角 雪月花に色勝りける紅葉かな

20^M
26
・
3
・
29
【角川俳句賞
20
26
B t
1
15
4
0
16
5
句】
選
40
句

角 乾杯のビールジョッキをぶつけ合ひ
角 青春はすでに思ひ出更衣
角 海の歌うたひ海水浴場へ
角 教室の画鋏寂しき夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 年輪を切れど年輪蟬時雨
角 あの時もこの葉桜と夏柳
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 長き夜の右へ左へ繰るページ
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 圧力をかけて新米炊き上げる
角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
角 雪月花に色勝りける紅葉かな
角 障子なき暮しなれども古畳

吹豆壳上以戥称之立にかき・見中

17行3段組14示
2026年5月30日
11:37
へ1
桐10

角 アパートに鳴く虫ひとつ時にふたつ

角 ポケットも子の手も小さき木の實かな

角雪月花に色勝りける紅葉かな

角子のマフラー編む愛しさよ短かさよ

角障子なき暮しなれども古畳

角 冬籠ひたすら我に籠るなり

角寒卵割つて裸の寒卵

角パックされて売場に並ぶミニ聖樹

角寒鴉用心棒の声を出す

角表裏なく踏み砕かれし落葉かな

角靴先の中の足先落葉踏む

角 年用意新製品に買ひ替へて

角初刷の見開き富士のやや歪

あり止んで素^そ雨^{あめ}の疑^ぎか^かうぞ^{うぞ}

~~イの目の
角ハく通に
2
7
5
2
5
7
3~~

1

5

1

2026.5.30【角川俳句賞2026 B 1747/176句】選47句

17行3段組14ボ 2026年5月30日 18:42へ1 桐10

角 あたたかや赤子笑つてゐるだけで

角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なりし

角 ぶり止んで春雨少し短かけれ

角 川幅も次第に春の川らしく

角 暗ければ暗き華やぎ春燈

角 友の字が反の字に似る万愚節

角 海までの長き旅路の難かな

角 夜桜の散り放題に夜は更けて

角 涅槃図の大き嘆きの吊られある

角 海を出て煮られ食はれて浅蜷の殻

角 桜貝ちひさな人に拾はれて

角 磨る墨の短くなりし梅の花

角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな

角 飯の名と言はれし仮名ぞ飛花落花

角 明易の保線作業を終りけり

角 四阿の四面楚歌なる夕立かな

角 息継ぎもせず飲み干す麦酒かな

角 如くあるある落つ

角 賽の目の西瓜は客にあとは子に

角 ポケットも子の手も小さき木の実かな

角 子のマフラー編む愛しさよ短かさよ

角 マフラーを伸ばして機嫌良かりけり

角 障子なき暮しなれども古畳

角 冬籠ひたすら我に籠るなり

角 寒卵割つて裸の寒卵

角 パックされて売場に並ぶミニ聖樹

角 寒鴉用心棒の声を出す

角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな

角 靴先の中の足先落葉踏む

角 皮むかず蜜柑むさぼる臍残る

角 年用意新製品に買ひ替へて

角 年用意新製品に買ひ替へて

角 年用意新製品に買ひ替へて

角 年用意新製品に買ひ替へて

角 年用意新製品に買ひ替へて

角 年用意新製品に買ひ替へて

- 角 あたたかや赤子笑つてゐるだけで
角 春昼の切られし糸の余りかな
角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり
角 川幅も次第に春の川らしく
角 暗ければ暗き華やぎ春燈
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 海までの長き旅路の難かな
角 おそろしきものに月夜の花吹雪
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 海を出て煮られ食はれて浅蜩の殻
角 桜貝ちひさな人に拾はれて
角 落椿あまたの赤き水輪かな
角 磨る墨の短くなりし梅の花
角 鉄橋を轟音越ゆる桜かな
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 明易の保線作業を終りけり
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 ゴム底の白靴化繊の野球帽
角 息継ぎもせずに飲み干す麦酒かな
角 乾杯やビールジョッキをぶつけ合ひ
角 青春はすでに思ひ出更衣
角 サングラス鏡仕立ての車や古ふ
角 平成の鏡仕立てのサングラス
角 教室の画鋏寂しき夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 長き夜の右へ左へ繰るページ
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 七夕の団地給水塔高し
角 思ひ出の薄れて哀し遠花火
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 圧力で炊く新米の鍋重し
角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
角 蜻蛉の翅の長さよ鳴きもせず
角 アパートに鳴く虫ひとつ今ふたつ
角 角切りの西瓜は客にあとは子に
角 ポケットも子の手も小さき木の実かな
角 子のマフラー編む愛しきよ短かきよ
角 障子なき暮しなれども古畳
角 冬籠ひたすら我に籠るなり
角 寒卵割つて生身の寒卵
角 パックされて売場に並ぶミニ聖樹
角 寒鴉用心棒の声を出す
角 寒に耐へ丸く膨らむ雀かな
角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな
角 皮むかず蜜柑むさぼる帯残る
角 年用意新製品に買ひ替へて

- 角 あたたかや赤子笑つてゐるだけで
角 青春はすでに思ひ出更衣
角 春昼の切られし糸の余りかな
角 教室の画鋏寂しき夏休
角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 川幅も次第に春の川らしく
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 暗ければ暗き華やぎ春燈
角 たけのこの里もきのこの山も秋
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 海までの長き旅路の難かな
角 長き夜の右へ左へ繰るページ
角 おそろしきものに月夜の花吹雪
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 七夕の団地給水塔高し
角 海を出て煮られ食はれ浅蜷の殻
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 桜貝ちひさな人に拾はれて
角 圧力で炊く新米の鍋重し
角 磨る墨の短くなりし梅の花
角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 蜻蛉の翅の長さよ鳴きもせず
角 明易の保線作業を終りけり
角 アパートに鳴く虫ひとつ今ふたつ
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 角切りの西瓜は客にあとは子に
角 息継ぎもせずに飲み干す麦酒かな
角 ポケットも子の手も小さき木の実かな
角 乾杯やビールジョッキをぶつけ合ひ
角 障子なき暮しなれども古畳
角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな
角 年用意新製品に買ひ替へて
角 サングラス鏡面仕立て早や古ぶ
角 落椿赤き水輪と思ふなり
角 轟音が鉄橋渡る山桜
角 ゴム底の白靴、化繊の野球帽
角 丸ごとの蜜柑むさぼる臍残る

角 あたたかや赤子笑つてゐるだけで
角 春昼の切られし糸の余りかな
角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり
角 川幅も次第に春の川らしく
角 暗ければ暗き華やぎ春燈
角 友の字が反の字に似る万愚節
角 海までの長き旅路の難かな
角 おそろしや雨ふる夜の花吹雪
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある
角 海を出て煮られ食はれて浅蜷の殻
角 桜貝ちひさな人に拾はれて
角 落椿赤き水輪と思ふなり
角 磨る墨の短くなりし梅の花
角 轟音が鉄橋渡る山桜
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花
角 明易の保線作業終るころ
角 四阿の四面楚歌なる夕立かな
角 ゴム底の白靴、化繊の野球帽
角 息継ぎもせずに飲み干す麦酒かな
角 乾杯やビールジョッキをぶつけ合ひ
角 青春はすでに思ひ出更衣
角 サングラス鏡面仕立て早や古ぶ
角 教室の画鋏寂しき夏休
角 前向きに幹を降り来る蟻の列
角 衰へし視力の端の蚊の羽音
角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 長き夜の右へ左へ繰るページ
角 台風を迎へ撃つべく遊園地
角 七夕の団地給水塔高し
角 盆用意わけのわからぬ箱もある
角 圧力で炊く新米の鍋重し
角 柔らかな岩の如くに鹿眠る
角 蜻蛉の翅の長さよ鳴きもせず
角 アパートに鳴く虫ひとつ今ふたつ
角 角切りの西瓜は客にあとは子に
角 ポケットも子の手も小さき木の実かな
角 たけのこの里にきのこの山に雪
角 障子なき暮しなれども古畳
角 冬籠ひたすら我に籠るなり
角 寒卵割つて生身の寒卵
角 店先に並ぶパックのミニ聖樹
角 寒鴉用心棒の声を出す
角 寒に耐へ丸く膨らむ雀かなと
角 表裏なく踏み砕かれし落葉かな
角 丸ごとの蜜柑むさぼる臍残る
角 年用意新製品に買ひ替へて
うたに下町の町もさへ
角 角の原半タンの角
天國と対の地獄は改行
13:48
2026.5.31
13:48
14:17
14:17
13:30
13:38
13:39

角 あたたかや赤子笑つてゐるだけで	角 ゴム底の白靴、化繊の野球帽	角 天国と対の地獄や敗荷
角 囀れば小川の水も奏づるよ	角 乾杯やビールジョッキをぶつけ合ひ	角 圧力で炊く新米の鍋重し
角 川幅も次第に春の川らしく	角 教室の画鋏寂しき夏休	角 ポケットも子の手も小さき木の実かな
角 磨る墨の短くなりし梅の花	角 サングラス鏡面仕立て早や古ぶ	角 ドア開けて我家の外の秋の暮
角 海までの長き旅路の難かな	角 前向きに幹を降り来る蟻の列	角 長き夜の右へ左へ繰るページ
角 牡丹餅の粒餡好きの彼岸なり	角 衰へし視力の端の蚊の羽音	角 障子なき暮しなれども古畳
角 涅槃図の大き嘆きの吊られある	角 夕焼や階下の町も炎の色に	角 表裏なく踏み碎かれし落葉かな
角 春昼の切られし糸の余りかな	角 四阿の四面楚歌なる夕立かな	角 冬籠ひたすら我に籠るなり
角 友の字が反の字に似る万愚節	角 明易の保線作業の終るころ	角 丸ごとの蜜柑むさぼる臍残る
角 桜貝ちひさな人に拾はれて	角 角切りの西瓜は客にあとは子に	角 店先に並ぶパックのミニ聖樹
角 海を出て煮られ食はれて浅蜷の殻	角 七夕の団地給水塔高し	角 年用意新製品に買ひ替へて
角 落椿赤き水輪と思ふなり	角 盆用意わけのわからぬ箱もある	角 初乗の電車に遠く司令室
角 轟音が鉄橋渡る山桜	角 鬼灯の花は知らねど買つて来る	角 たけのこの里にきのこの山に雪
角 仮の名と言はれし仮名ぞ飛花落花	角 柔らかな岩の如くに鹿眠る	角 寒卵割つて生身の寒卵
角 暗ければ暗き華やぎ春燈	角 蜻蛉の翅の長さよ鳴きもせず	角 寒鴉用心棒の声を出す
角 おそろしや雨ふる夜の花吹雪	角 アパートに鳴く虫ひとつ今ふたつ	角 恋人と春待つ花を数ふれば
角 青春はすでに思ひ出更衣	角 台風を迎へ撃つべく遊園地	